

## 妊娠・出産・育児支援コミュニティ・ネットワークの研究開発

(下屋 浩一郎 川崎医科大学) 研究開発期間：平成26年度～平成28年度

### 1 研究開発の目的 (図1)

母子健康手帳の電子化による情報利活用の支援、悩みや不安の経験談を共有でき、医療職、妊婦、家族を繋ぐ妊娠・出産・育児支援コミュニティ・ネットワークの実現

### 2 研究開発の概要 (図2)

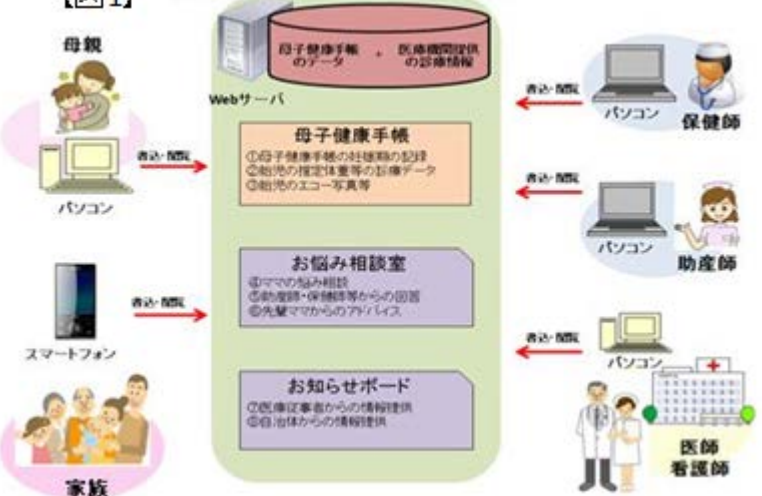
【フェーズ I】手帳の情報と医療機関から提供される妊娠の経過、推定体重、胎児のエコー画像等の情報をスマートフォンで閲覧できる機能、書き込み機能の実現  
 【フェーズ II】コミュニティ・ネットワーク構築および実証実験(対象は研究代表者所属施設を受診され希望される方すべて)

### 3 期待される研究開発成果及びその社会的意義 (表1)

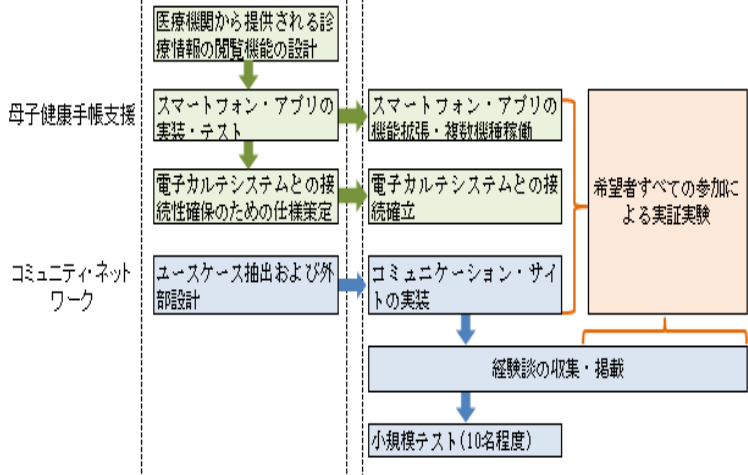
【表1】

- 成果① 妊娠・出産・育児支援システム構築  
⇒ 安心して子供を産み育てることのできる社会環境
- 成果② 母子健康手帳電子化からPHRへ  
⇒ 生涯健康記録の出発点としてのモデル提示
- 成果③ 家族間でのプライバシー等の考え方の整理  
⇒ 我が国のPHRの在り方
- 成果④ 国際標準準拠基盤技術に基づいたシステム構築  
⇒ 他地域への展開、保健医療福祉の他領域への適用
- 成果⑤ モバイルヘルスとしての成果  
⇒ 産業界におけるモバイルヘルス ICT事業への波及効果

【図1】 妊娠・出産・育児支援コミュニティ・ネットワーク



【図2】 フェーズ I：平成26年度 フェーズ II：平成27年度 平成28年度



### 4 研究開発の進捗状況と今後の予定

#### 【進捗状況】

- ① 母子健康手帳支援機能を開発
- ② 全体構成を設計 (図3)
- ③ 基盤パッケージ (図3(B)) の導入
- ④ 診療情報のスマートフォンへの表示まで一連のプロセスの策定 (図3(C))
- ⑤ 外部評価委員会を設置

#### 【今後の予定】

- ① スマートフォン・アプリの機能拡張
- ② 登録者間コミュニケーション機能 悩み・不安・対処等の経験談機能の実装
- ③ 妊娠・出産・育児支援コミュニティ・ネットワークの実装、実証実験の実施
- ④ 実運用の外部評価実施
- ⑤ 家族間・診療情報プライバシーに関する倫理的・社会的側面からの考察と纏め

【図3】

